最優秀賞（中学校の部）

たいせつな人との思い出
（課題図書：たいせつなひとへ）【感想文】

クロスミッションクリスチャンスクール　Ｇ８　蔡（ちぇ）　仁賀（いんは）

「思い出」とは何だろうか？私は時々、寝る時に過去にあった嬉しかった事や、悲しかった事など、色々な思い出を回想する。この本の最初のページをめくった時、「この本が私にぴったりだ」ということに気付いた。何故なら、私は人生の思い出を振り返ったりする感動的な本が好きだからだ。この本はもちろん、そのような本を読んでいると、なんだか心がポカポカし、温かい気持ちになって来る。そういうわけで、私はこの本を読む時、今までの人生の思い出を回想しながら読んだ。

この本、「たいせつな人へ」は実話で、九十歳の誕生日を迎えた主人公のフランシス・カマルツが、寝床で昔の思い出を回想する話だ。フランシスは、戦争と一緒に人生を過ごした。彼は父親が大好きで、父との間にたくさんの思い出があった。また、彼には弟のピーター・カマルツがいて、とても仲が良かった。しかし、二人の戦争に対する意見は違っていた。フランシスは常に非暴力で戦争を解決する事を望んでいたが、弟のピーターは「敵の残虐な行いを止めるためには戦わないといけない」と主張していた。そして結局、ピーターは従軍として戦争に出た。しかし、悲しいことに彼は飛行機の墜落事故で死んでしまった。このようなことがきっかけで、フランシスは、心を決め、戦争に出ることにし、妻のナンシーと子どものニキには秘密にしたまま、葛藤の中でも国のために特殊作戦実行部隊(スパイ)として戦争にで出ることを決めた。国のために戦う中で、フランシスは色々な人々との友情を結んだ。中でも私にとっては、オギュスト・フラハヤポール・エロー、またクリスティーン・グランヴィルの三人が印象的だった。それぞれ色々な個性を持っていて、とても面白かった。また、人生で巡り合った大切な人達に支えられながら、フランシスが成長していくことも見ながら、とても感動し、私の人生においても、これまで会って来た人々はすべて神様がくれた大切な宝物だということに気付いた。

私は三人の中でもクリスティーンが特に心に残った。彼女は「必ず生き延び、仲間のためならどんなことでも大胆にやり抜く」という素晴らしい個性を持っていた。彼女は刑務所の担当士官を納得させて、まもなく銃殺される状況にあったフランシスを救い出す大活躍をしたのだ。彼女は、人の命の大切さを分かっていた。私は大切な人のためなら命の覚悟ができるというクリスティーンを見ながら関心の心と共に、尊敬する心を持った。

私はこの本を読みながら、家族や友達など、私の身近にいる大切な人について考えてみた。振り返ってみると、私の人生を支えてくれる人がいることによ

って、今まで笑えて、悲しい時には一緒にいることで、色々な事を学ぶ事が出来たということを気付かされた。一人ひとりが私に大切な思い出をくれたということが分かった。私は時に、家族や身近な人に小さいことで腹を立ててしまって、友情や絆を壊してしまうことがある。しかし、そのような時も、その人がくれた愛や、その人に対する感謝なこと、また、思い出などを思い起こし、良い関係を維持することが大切だと思った。また、あまり仲が良くなかったり、特に何の関係がなかったりする人でも、全て神様が造った平等な人間であり、実に些細な思い出をくれるのだ。なので、その人がいてくれるだけでも感謝して、良い所をたくさん褒め、どんな環境や状況においても隣人を大切に出来るような人になりたい。

「思い出」とは何だろうか？それは大切な人と過ごしてきた時間だと私は思う。いつか学校の先生に聞いたことがあるが、「愛」とは、「大切な人のために時間を使い、共にする」というものだそうだ。このことを心に留め、これから先も、人を愛し、大切な人とたくさんの思い出を創りながら生きていきたい。